



なるほど！用紙豆知識

用紙について一般的な知識を説明します。

用紙にはこんな種類があります

DocuColor 1450 GAでは、非塗工紙（上質紙や再生紙、中性紙など）、塗工紙（キャスト紙やアート紙、コート紙など）、アプリケーション用紙（ラベル紙や封筒、フィルム紙などの特殊用途紙）が使用できます。また、用紙には厚みがあり、坪量*が目安となります。用紙の種類と坪量に適した設定をしてください。

*「坪量（重量）と連量について」を参照してください。

非塗工紙 プリンター向け、オフセット印刷機向けの上質紙や再生紙、中性紙など

塗工紙 グロス系とマット系があります。コート量は目安です。

キャスト	A1アート	A2コート	A3軽量コート	アートポスト
コート量： 40 g/m ² 以上	コート量： 40 g/m ² 以上	コート量： 20 g/m ² 以上	コート量： 15 g/m ² 以上	コート量： 20 g/m ² 以上 坪量： 200 g/m ² 以上

- グロス系
光沢があり、カラープリントに適している
- マット系
光沢を抑えてあり、写真や画像と文字を同時に印字するのに適している

アプリケーション用紙（特殊用途紙）

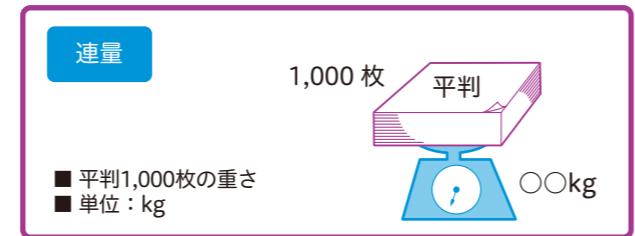
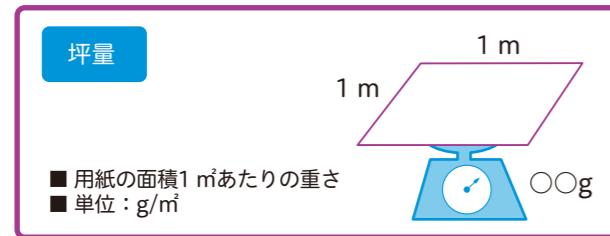


坪量（重量）と連量について

用紙の重量は「坪量」や「連量」で表します。坪量や連量は、用紙の厚さの目安になります。

「坪量」とは、用紙の面積1m²あたりの重さのことです。単位は「g/m²」です。

「連量」とは、平判1,000枚（一連）の重さのことです。単位は「kg」です。連量は、一般的に「四六判kg連量」が使われていますが、まれに菊判やA判が使われることもあります。

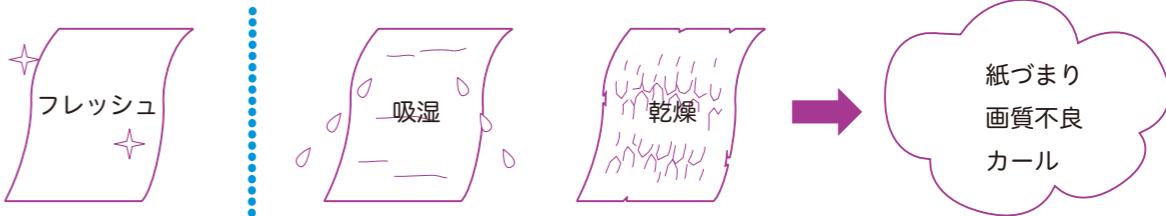


もっと詳しく!
坪量と連量については、マニュアルをご確認ください。
『管理者ガイド』>「2 用紙のセット」

吸湿と乾燥について

用紙は植物性のパルプ繊維から作られ、外気の水分を吸ったり乾燥したりします。

紙づまりや画質の不具合、反り（カール）などの原因となるため、なるべく開封直後のフレッシュな状態でご使用いただき、保管状態にもご配慮ください。

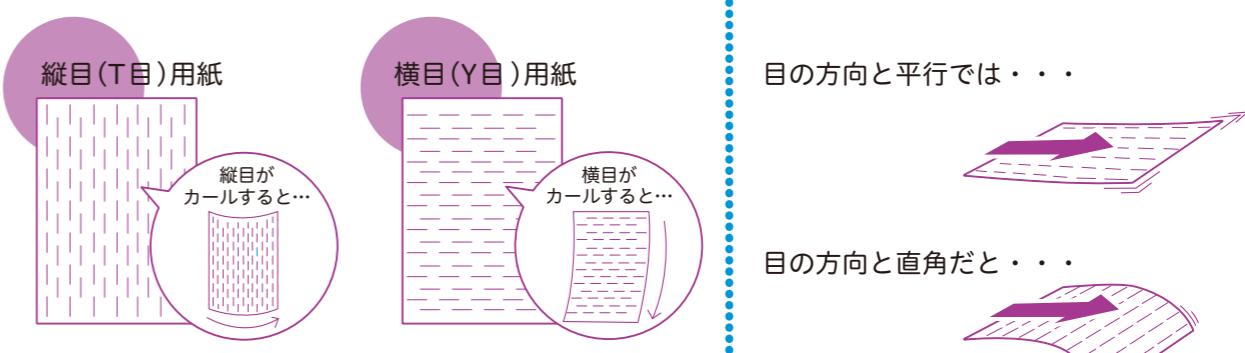


一般的な用紙の水分量は4~6%（未開封状態）で、含水時には約10%、乾燥時には約3%まで変動します。

目（紙目）と裏表について

用紙の製造過程で「目（繊維の方向）」ができます。長辺と平行に目がある用紙を「縦目（T目）用紙」、短辺と平行に目がある用紙を「横目（Y目）用紙」と呼びます。用紙は湿気を吸ったり乾燥したりすると、目に沿って曲がる性質（カール）があります。用紙のコシも目に沿って強い・弱いがあります。

また、用紙（特に片面コート紙やラベル用紙など）にはおもて面とうら面があります。用紙トレイに用紙をセットするときは、目や裏表に留意してください。



富士ゼロックスの用紙の横目（Y目）用紙には、サイズに「Y」が記載されています。
詳しくは、弊社公式サイトをご覧ください。

保管と取り扱いについて

用紙は外気の水分の影響を受けやすく、また衝撃によって変形しやすいため、次のことに注意してください。

- 用紙はキャビネットの中や、湿気が少ない場所に保管してください。用紙が湿気を含むと、紙づまりや画質不良の原因になります。
- 開封後、用紙の残りは包装紙に包んで保管してください。
- 用紙は、折れや曲がりを防ぐために、立てかけずに水平に保管してください。
- 直射日光を避けて保管してください。